



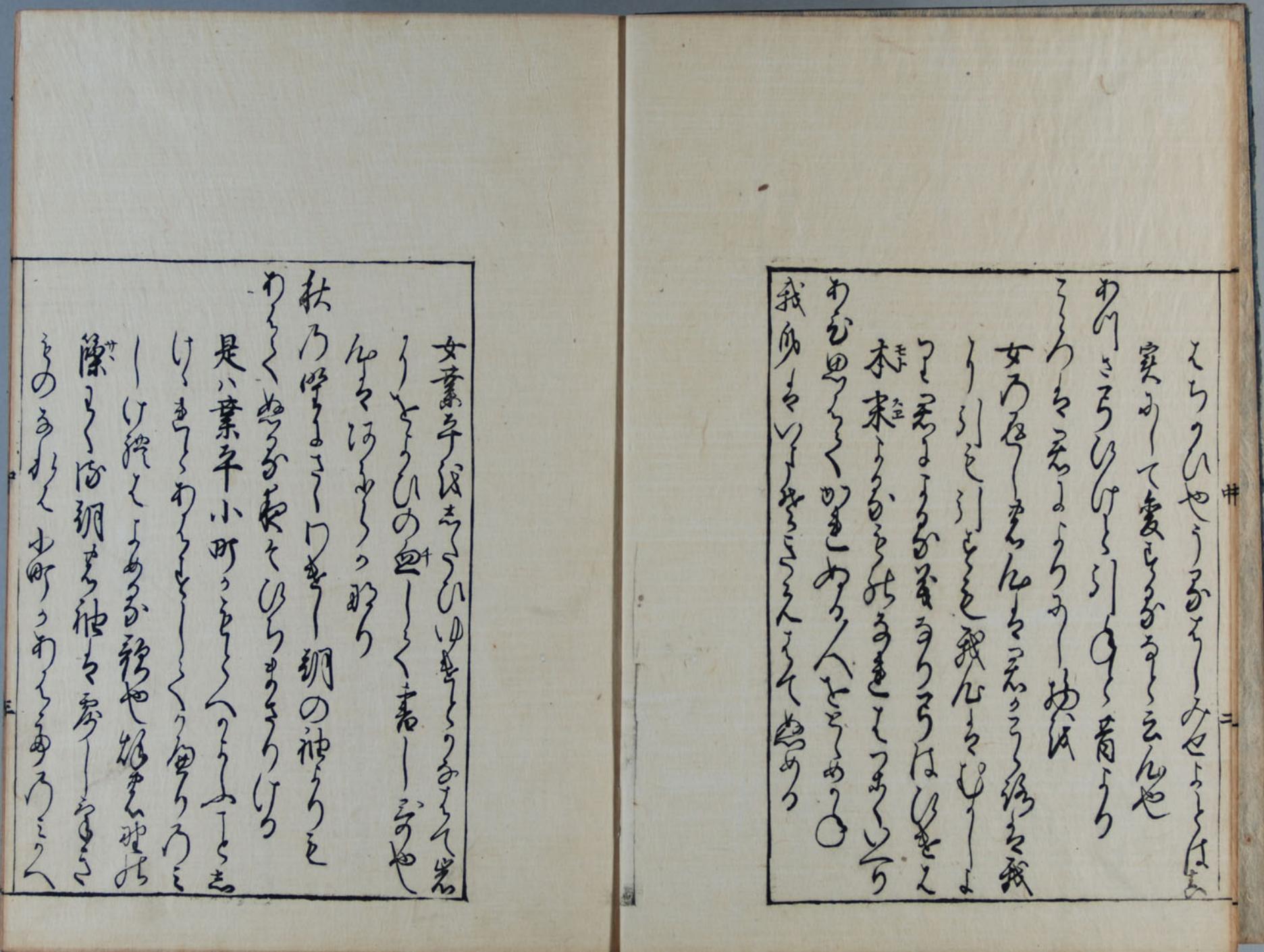
名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「山口記」中
10062254 1/37

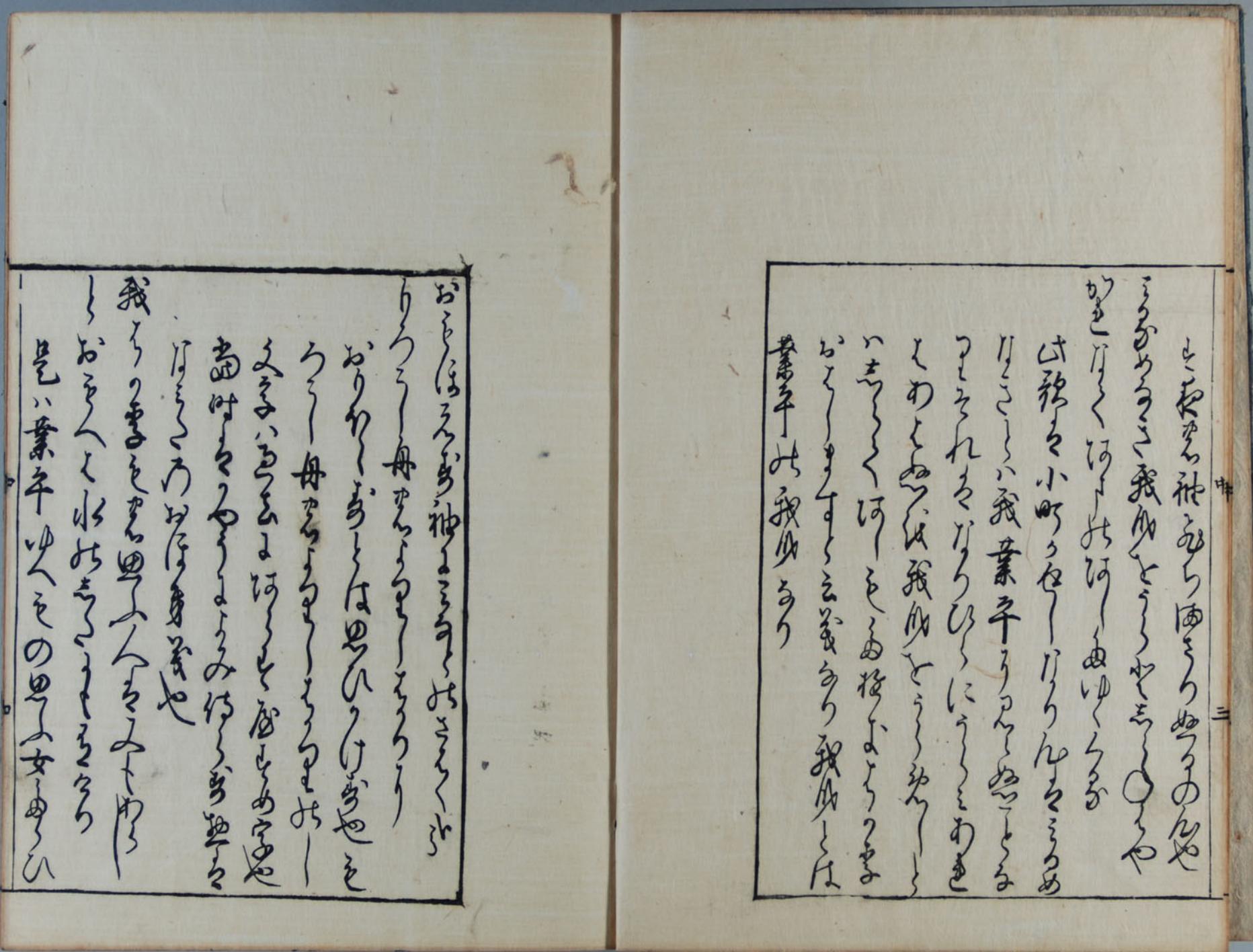


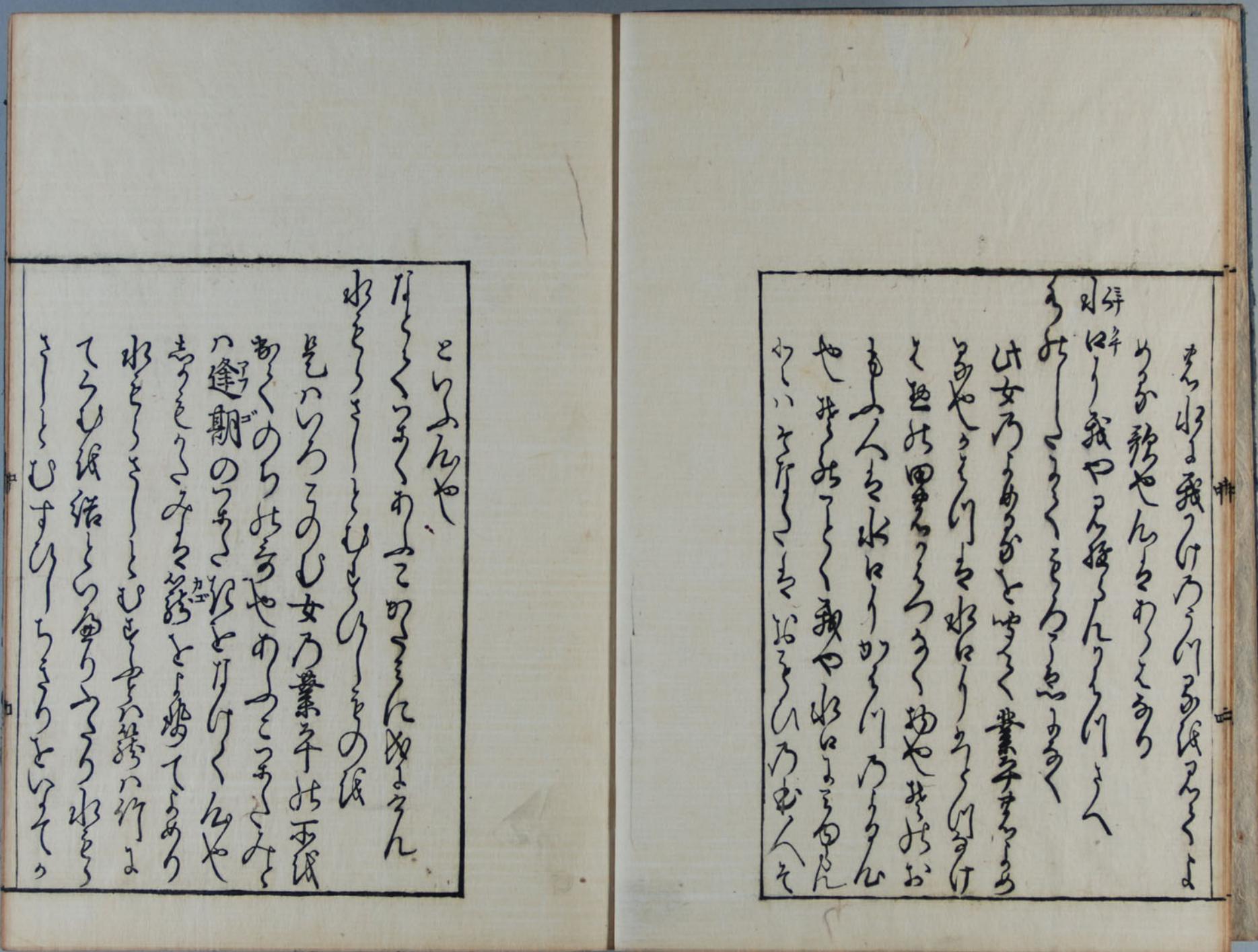
まくらの生まくらをもととて筆平
めのさうは筆まつてからくは今く
我さうかくまくらをもくらせよ
むつさうかくまつてからくは今く
絆や筆筆をくくはなくせよ
まの事やらひくとくはな
ゆくくの筆いふくくく
もとく筆筆をくくく
や下志向我せうかくくはくや
藝筆うかくくくくくや

物語より知る所の事なり。かくして
トヨタモトセ也。

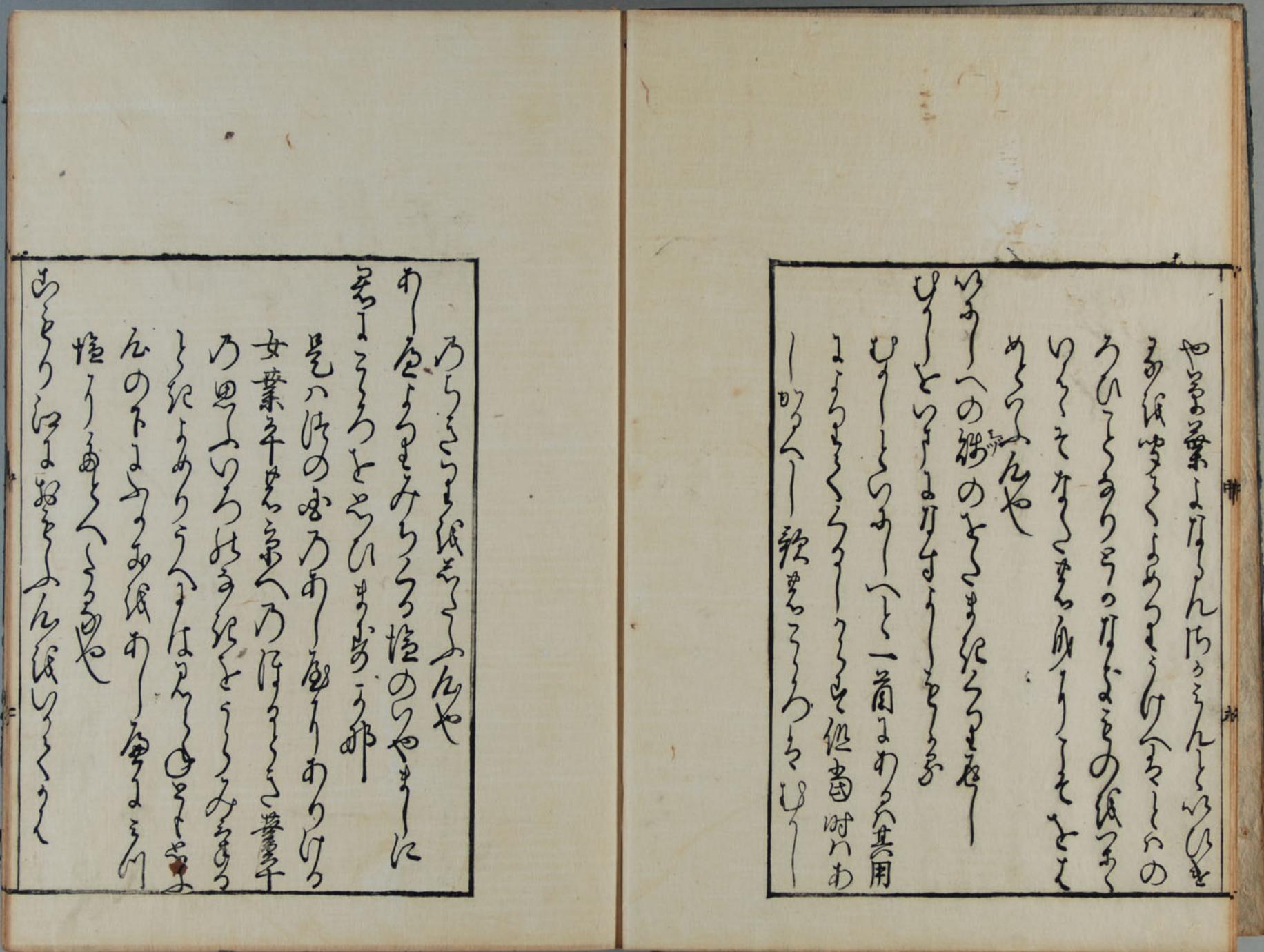
トヨタモトセは年少の頃と幼少の頃
と見し如也。やがてのちの如きは
是ハリトモ元ノ御家ノ子也。ト
トヨタモトセは既に女ノモトヘナセ
ナリ。トヨタモトセは既に男ノモトヘ
ナリ。トヨタモトセは既に男ノモトヘナリ。
トヨタモトセは既に女ノモトヘナリ。

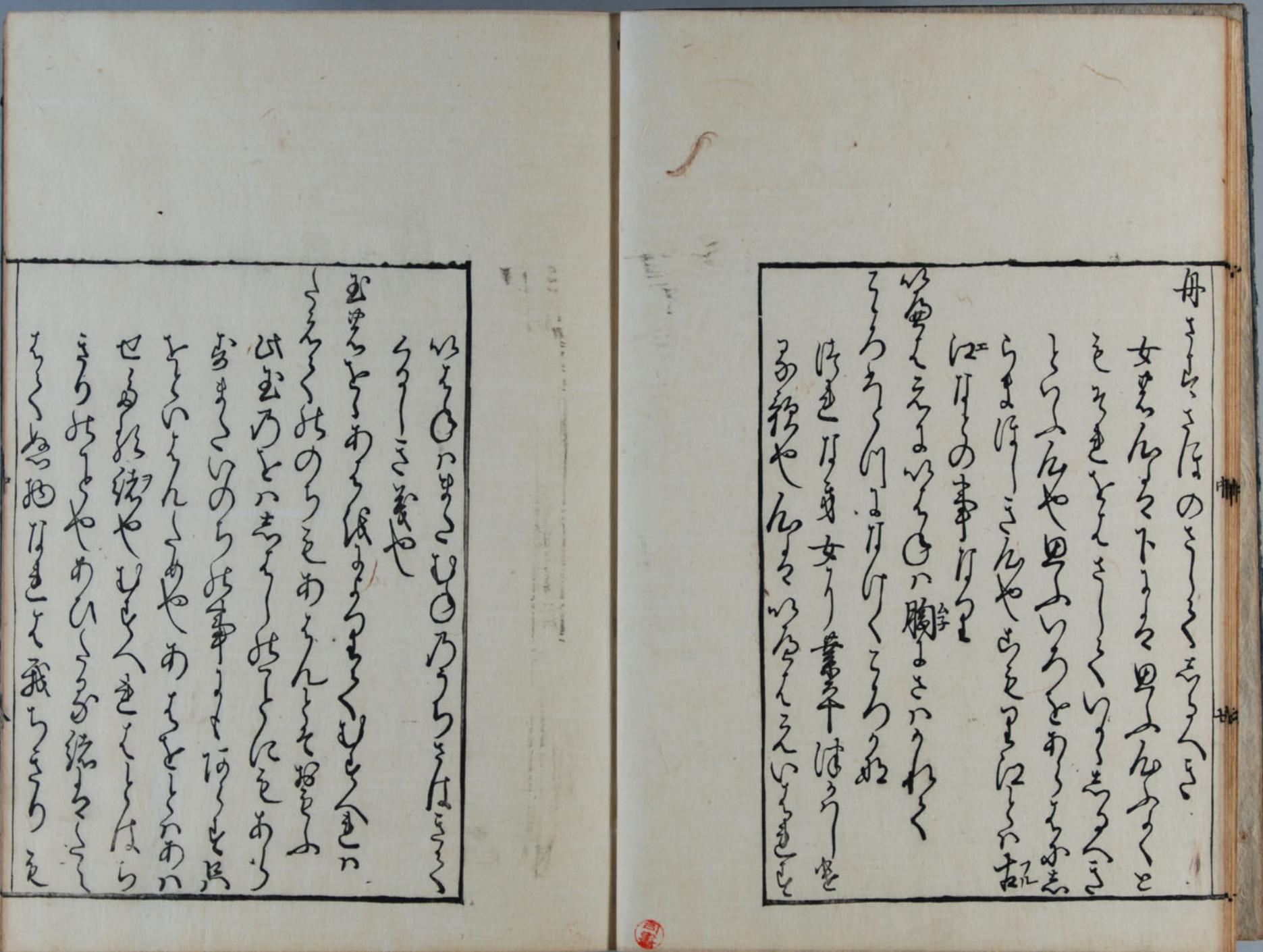


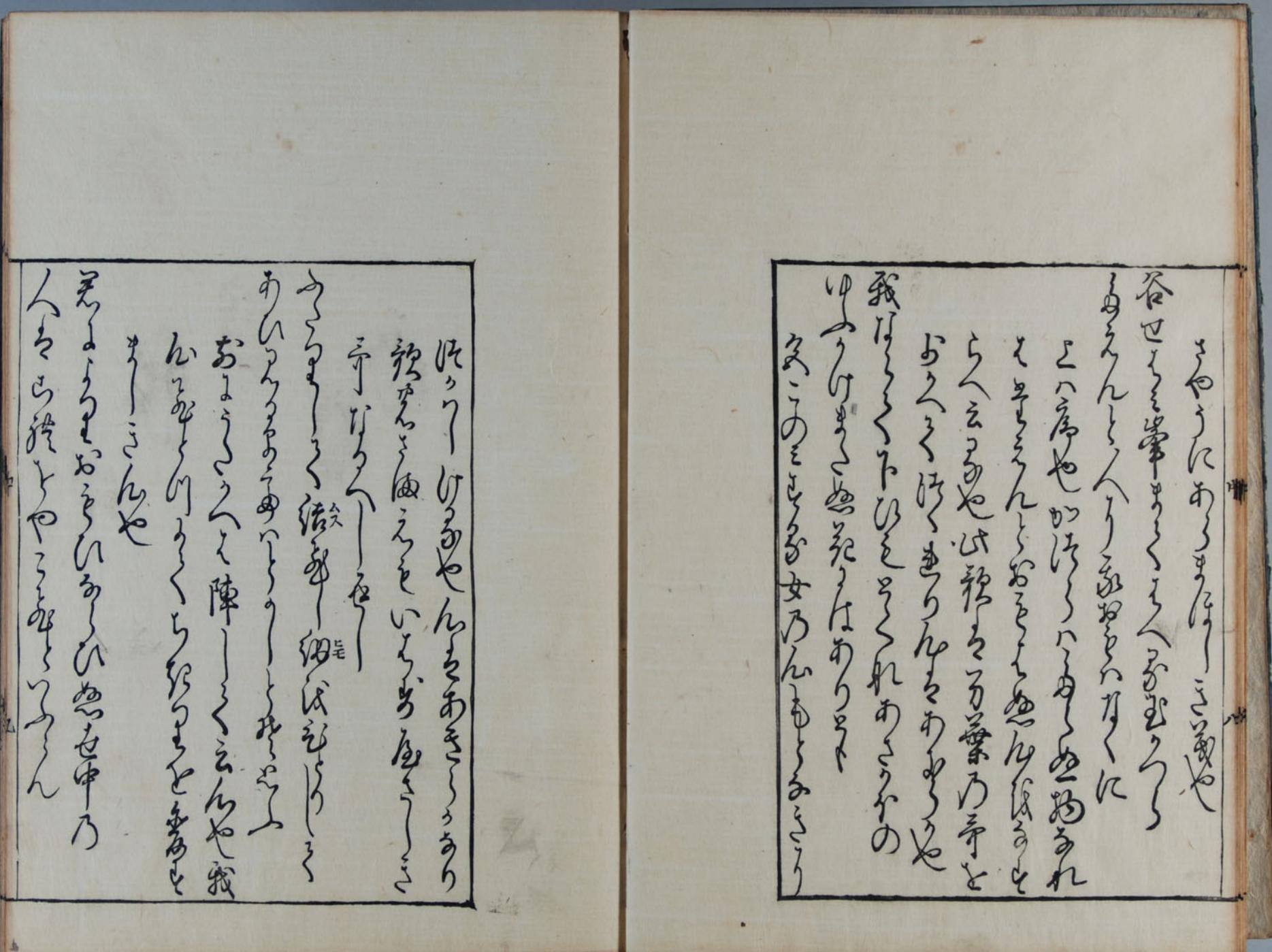


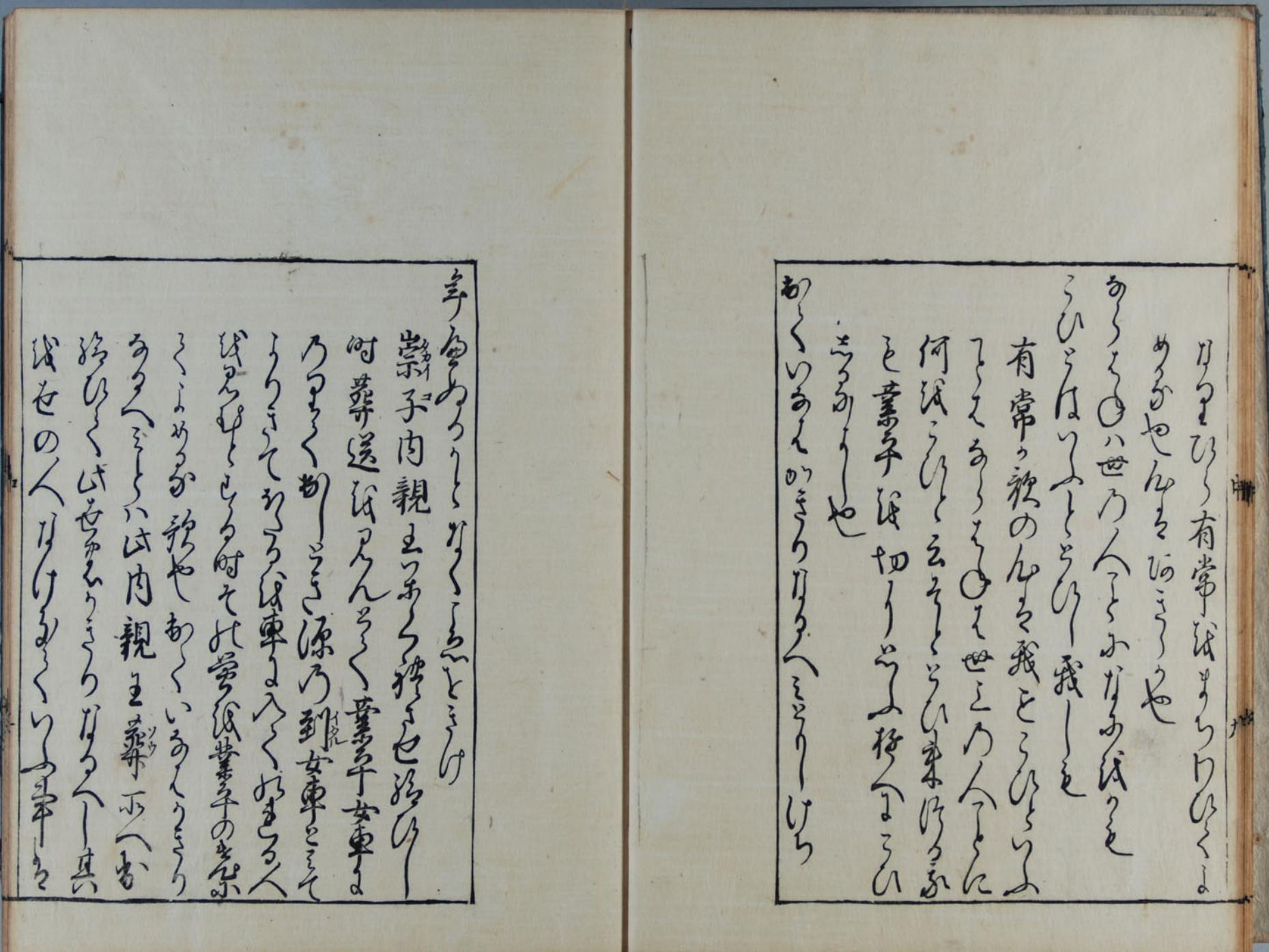


も義や儀よ義よゆどひ
ゆ云極も事や
義よあらゆりけりひもや
あらゆりひよあらゆりけり
乞ヒタチひヒタチ客ゲタツひゲタツ女郎メイウの深タマき乃ノ底タマの間マツ
だの客ゲタツはとハトをひひり事モノや義ヒの
客ゲタツは衣ヒナも付ハタくう候マツくうすり
吾タマの付ハタくう候マツ候マツのがるタマくう
候マツくう候マツのがるタマくう





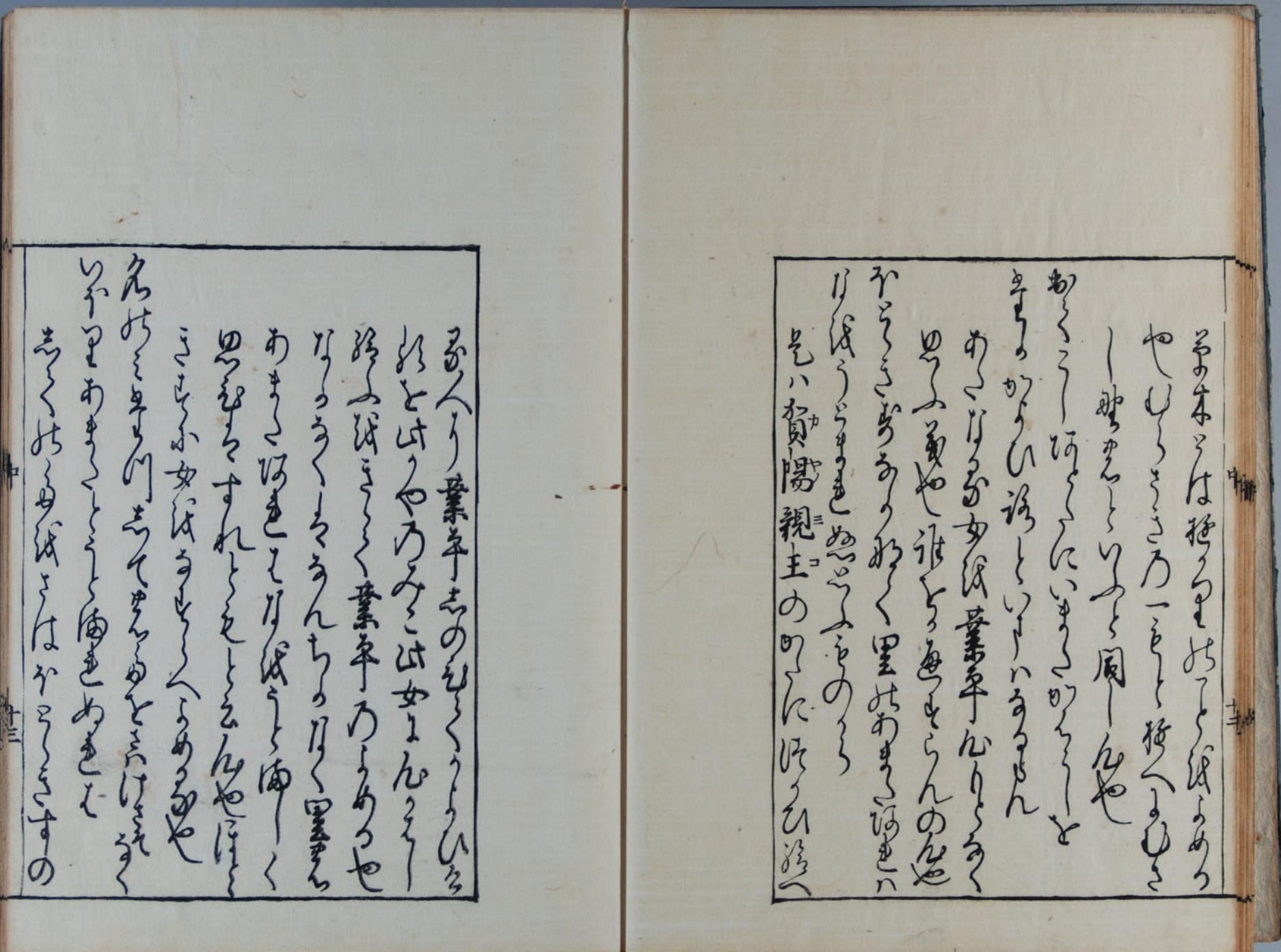


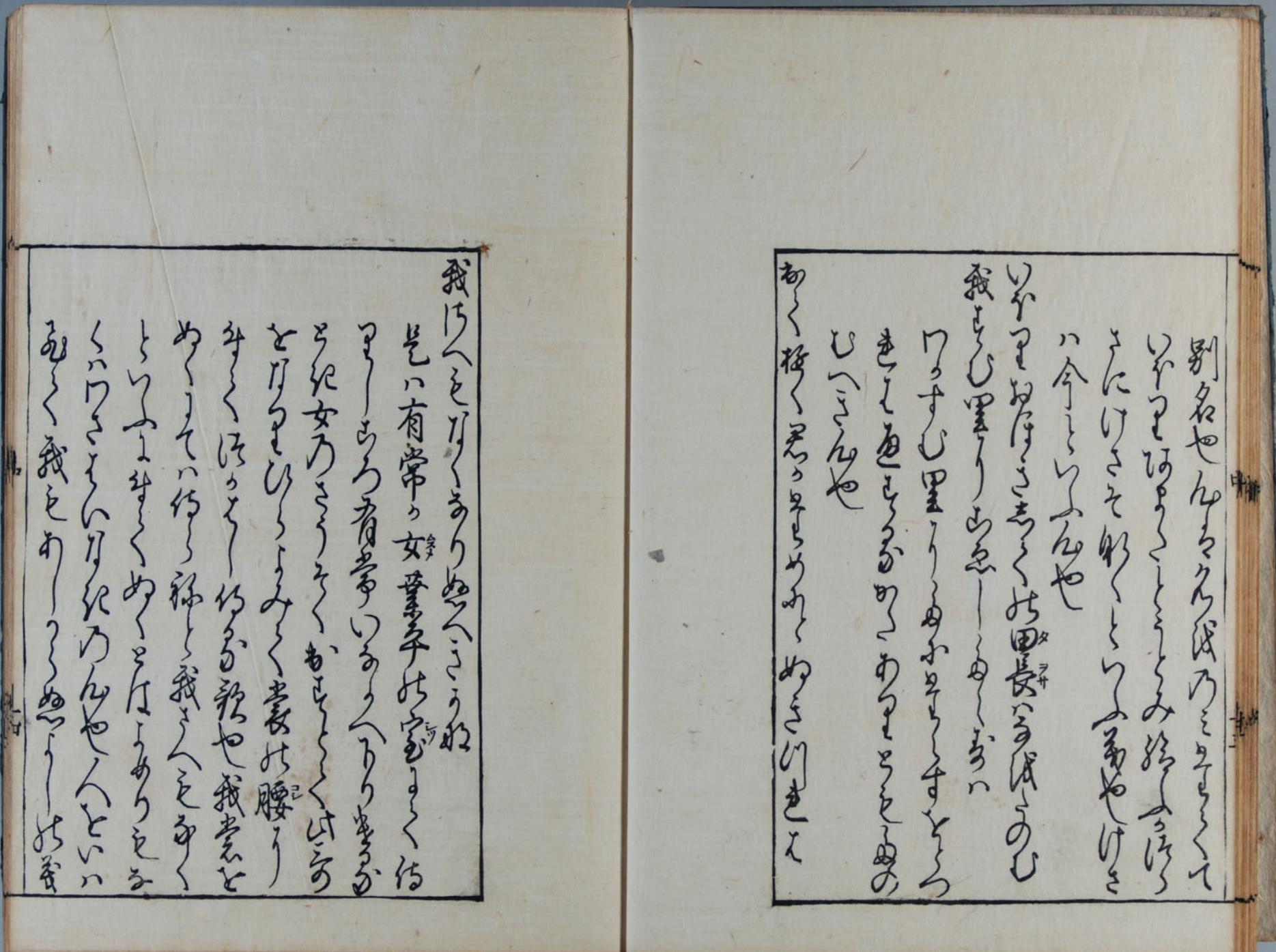


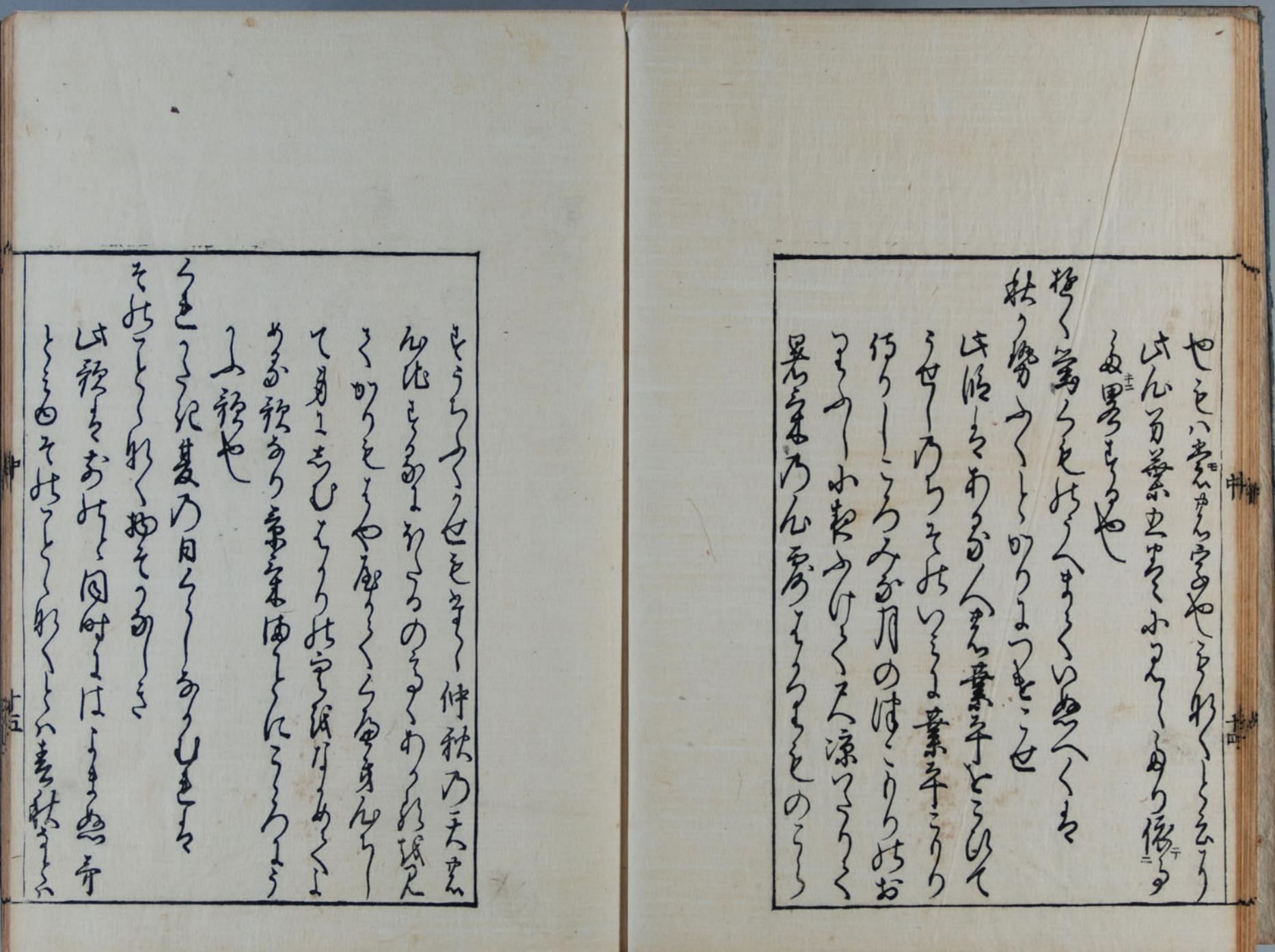
年をうまくもんはくわく
あとはまけだもんくわくはく
もくはくもんくわくもんくわく
えりとくはくもんくわくもんくわく
りくもんくわくもんくわくもんくわく
もんくわくもんくわくもんくわくもんくわく
うめ事や
うめ事や
うめ事や

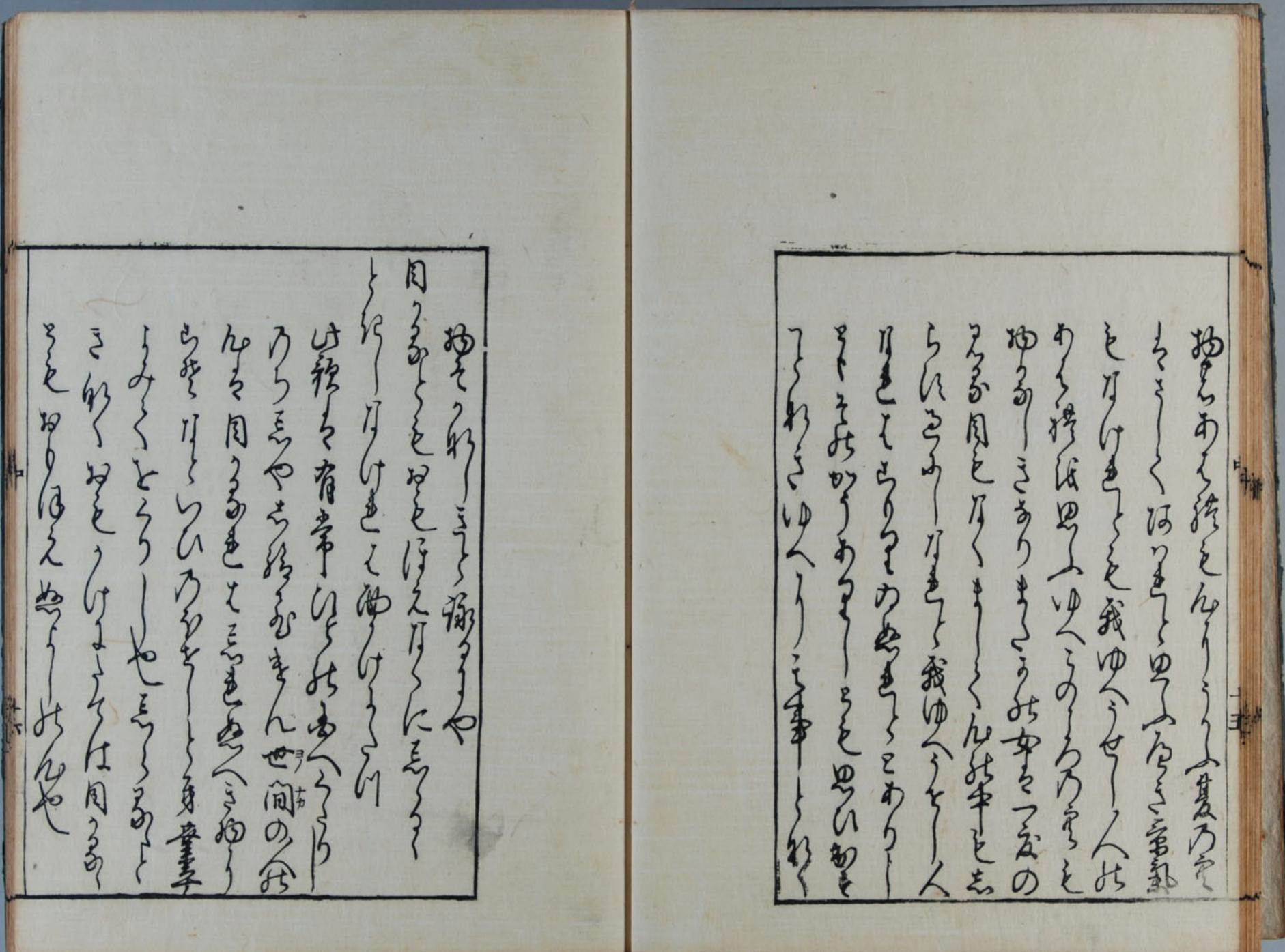
そゆゆふと云ふやうにせうゆ
我ももとよりは一切衆生の
思ひ立大りし事はあくまでも
りとあるがゆゑに敵とては
は思ひ立大りゆり然る事より
あつてはゆうと云ふや
ゆくゆく非うゆき乃うゆん
ゆうゆくにまよひゆうゆくゆう
は所もあつてはゆうゆくゆう





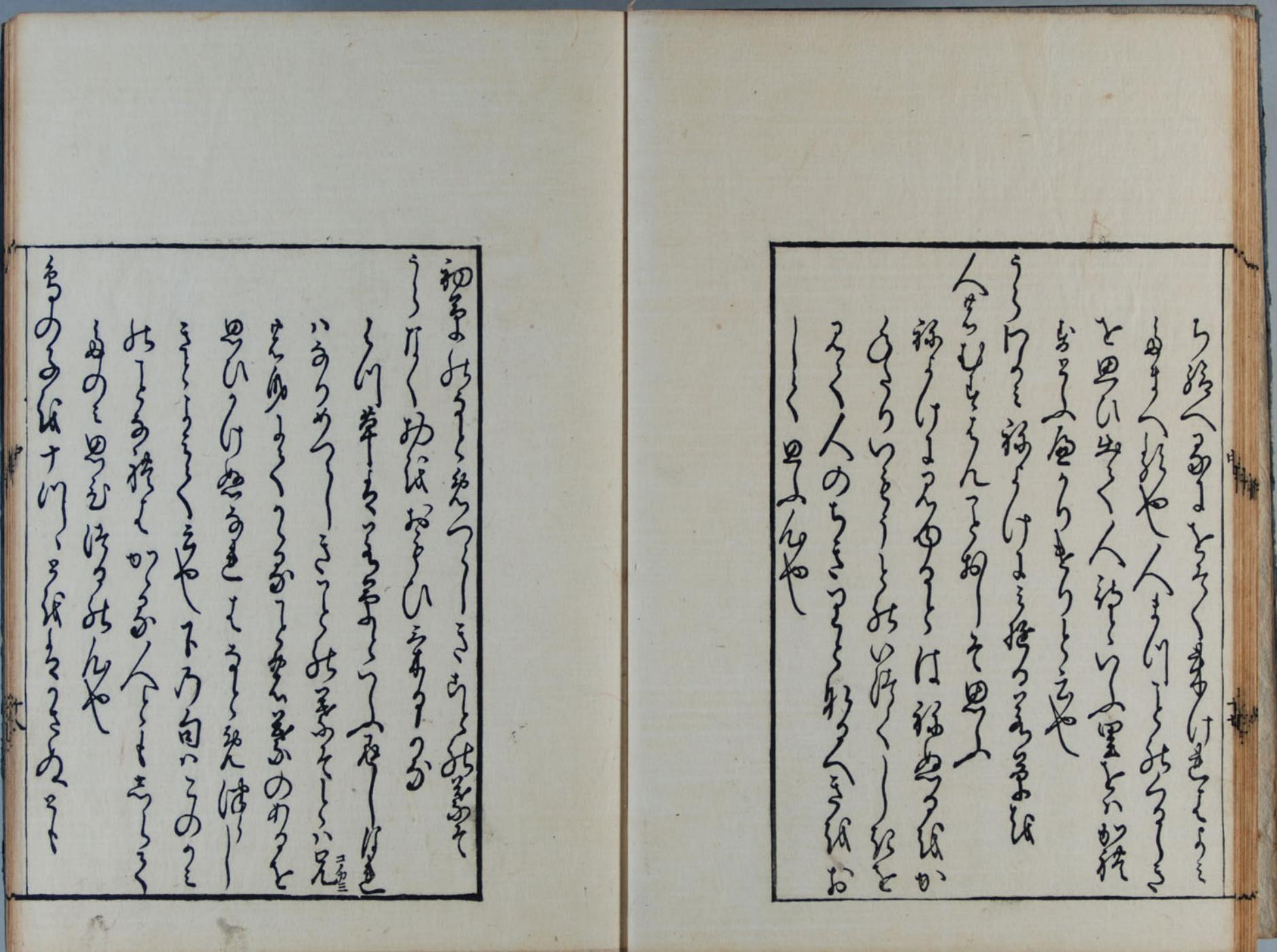


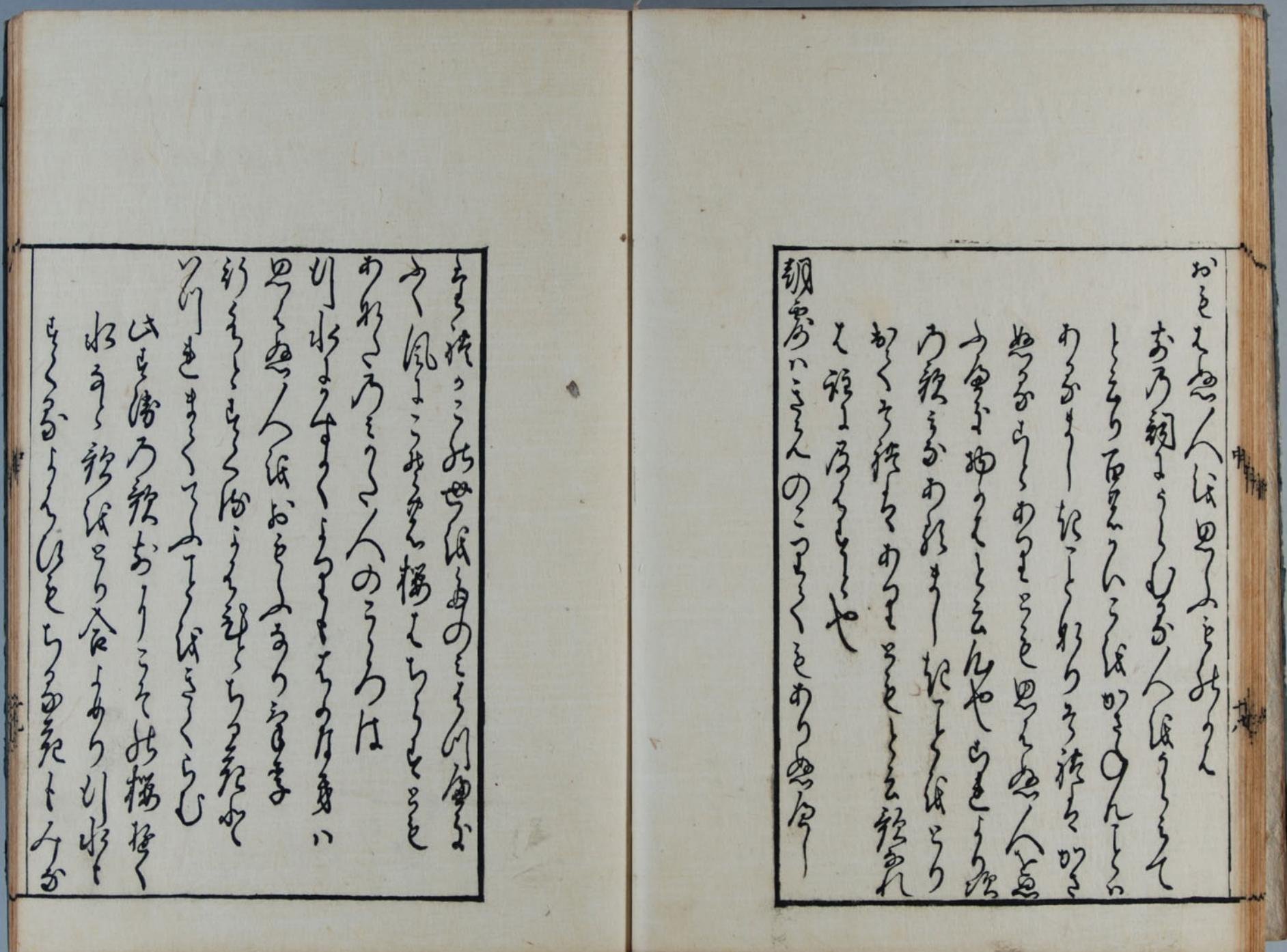


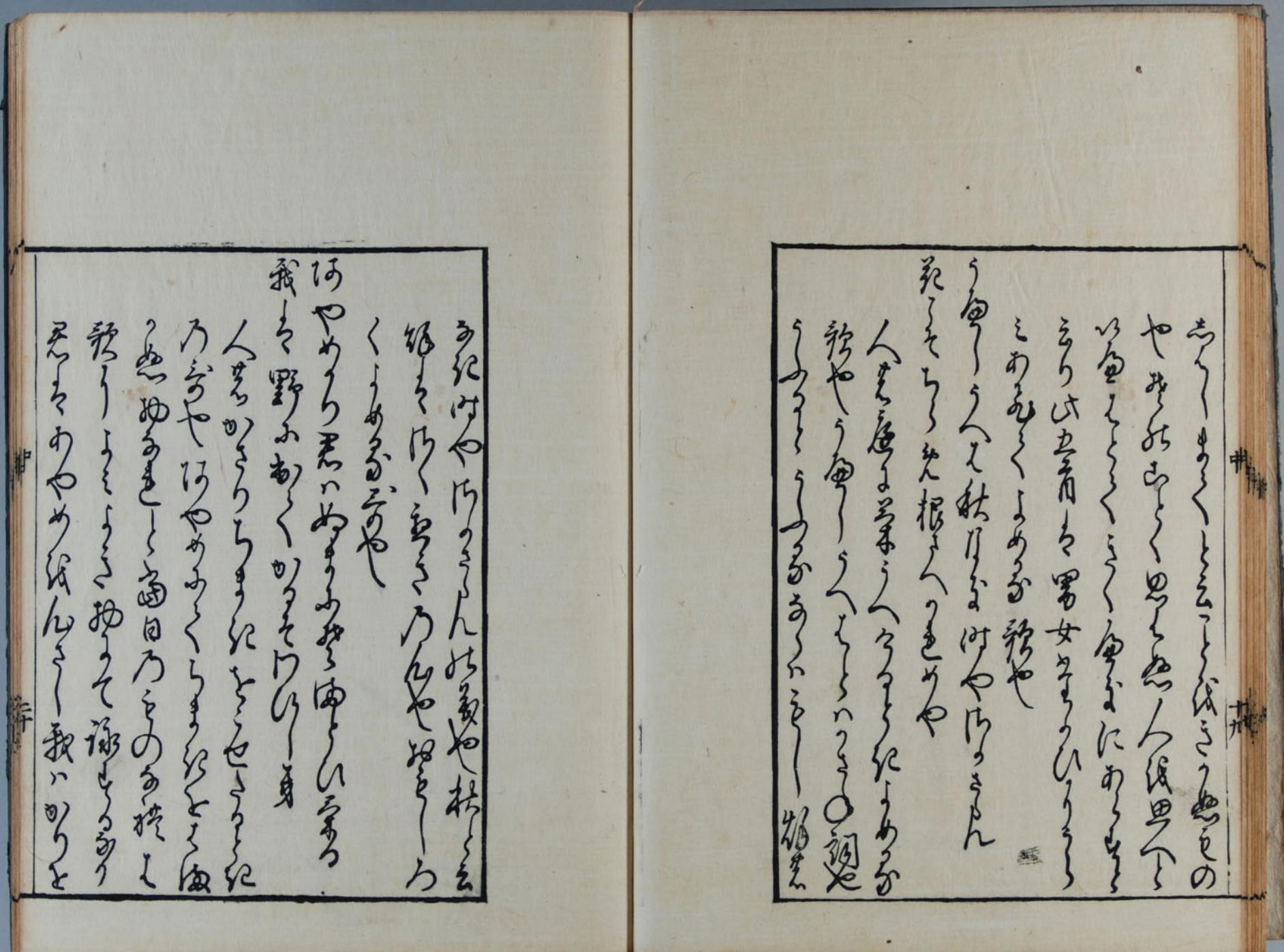


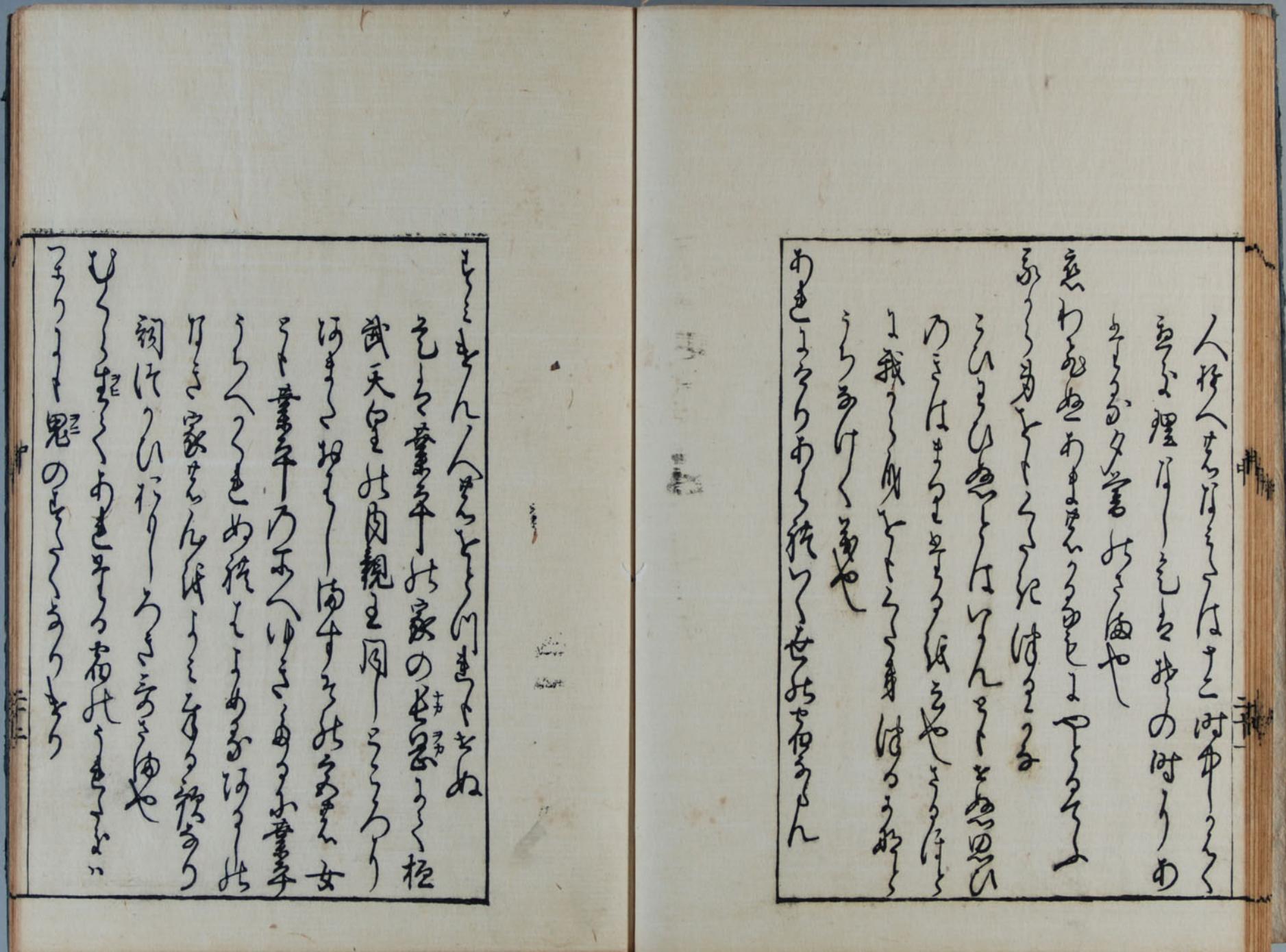
大歎きの如きを此の間見聞せ
て以來の如きをもあつて見るの如
きはあつてゐるといふ事は
と仰後方はゆゑど一の事とある
ふうに我を考へ易い事は御座
也とつゆる也

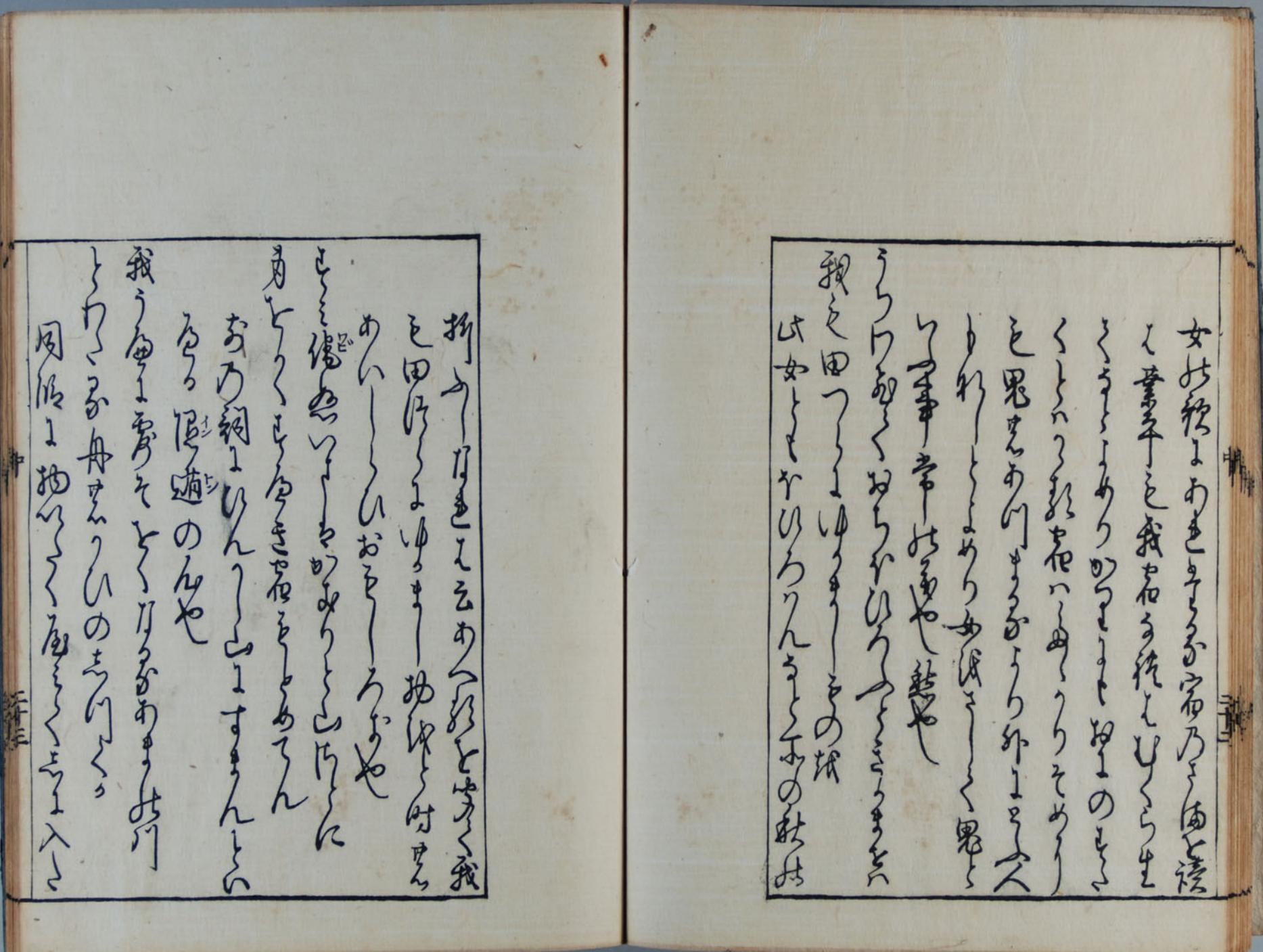
ちかくおおきにあまにゆきと
ちかくやまととあまうきと
童子山 おのとくらわまとめれ
まくとゆきとあわうしむりりと
わくとくわくにあまおとほけと
あわや 仰様とくすとくじとく
とくとくとくとくとくとくとく
ひきとくとくとくとくとくとく
ひきとくとくとくとくとくとく
ひきとくとくとくとくとくとく



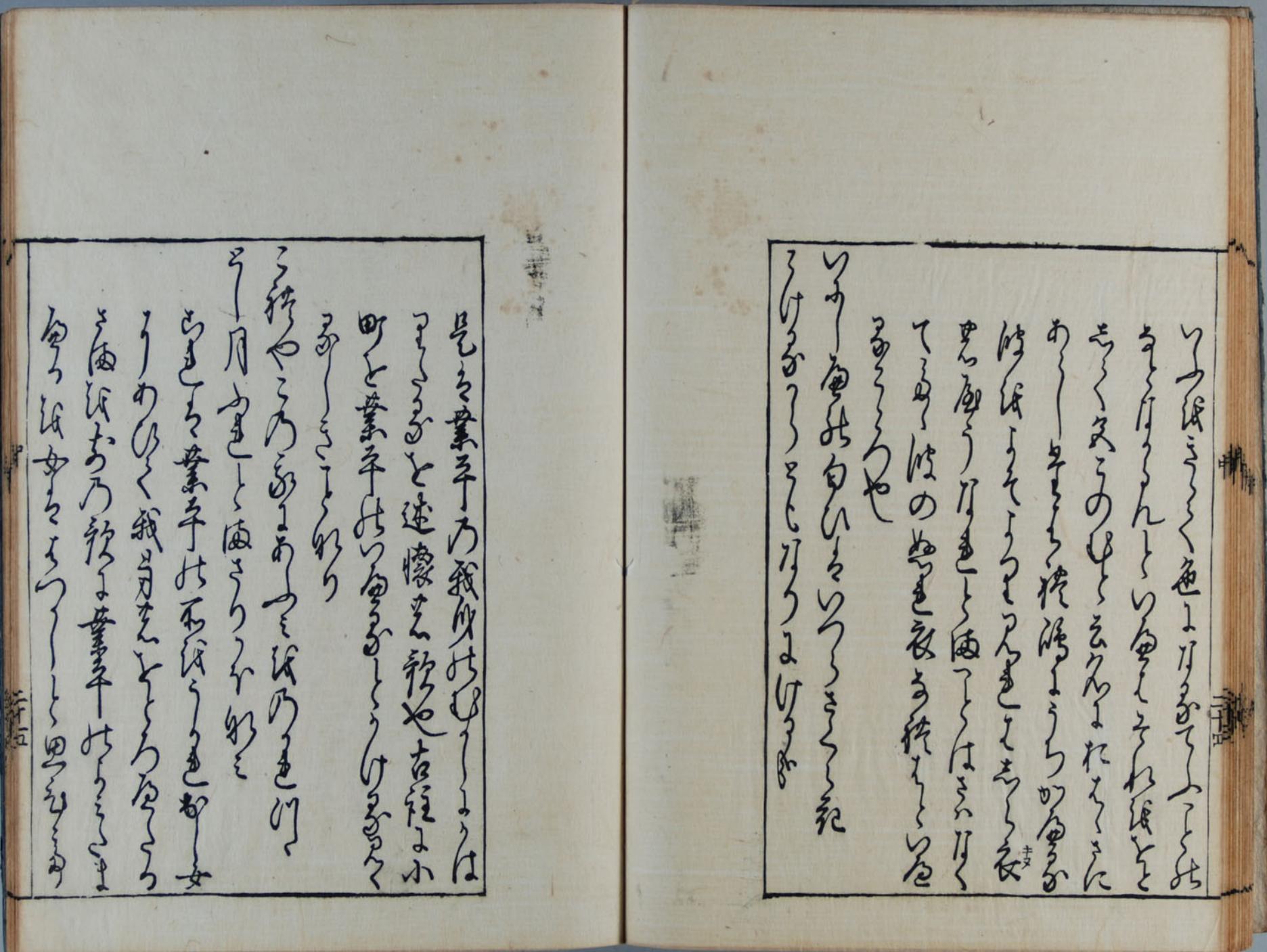


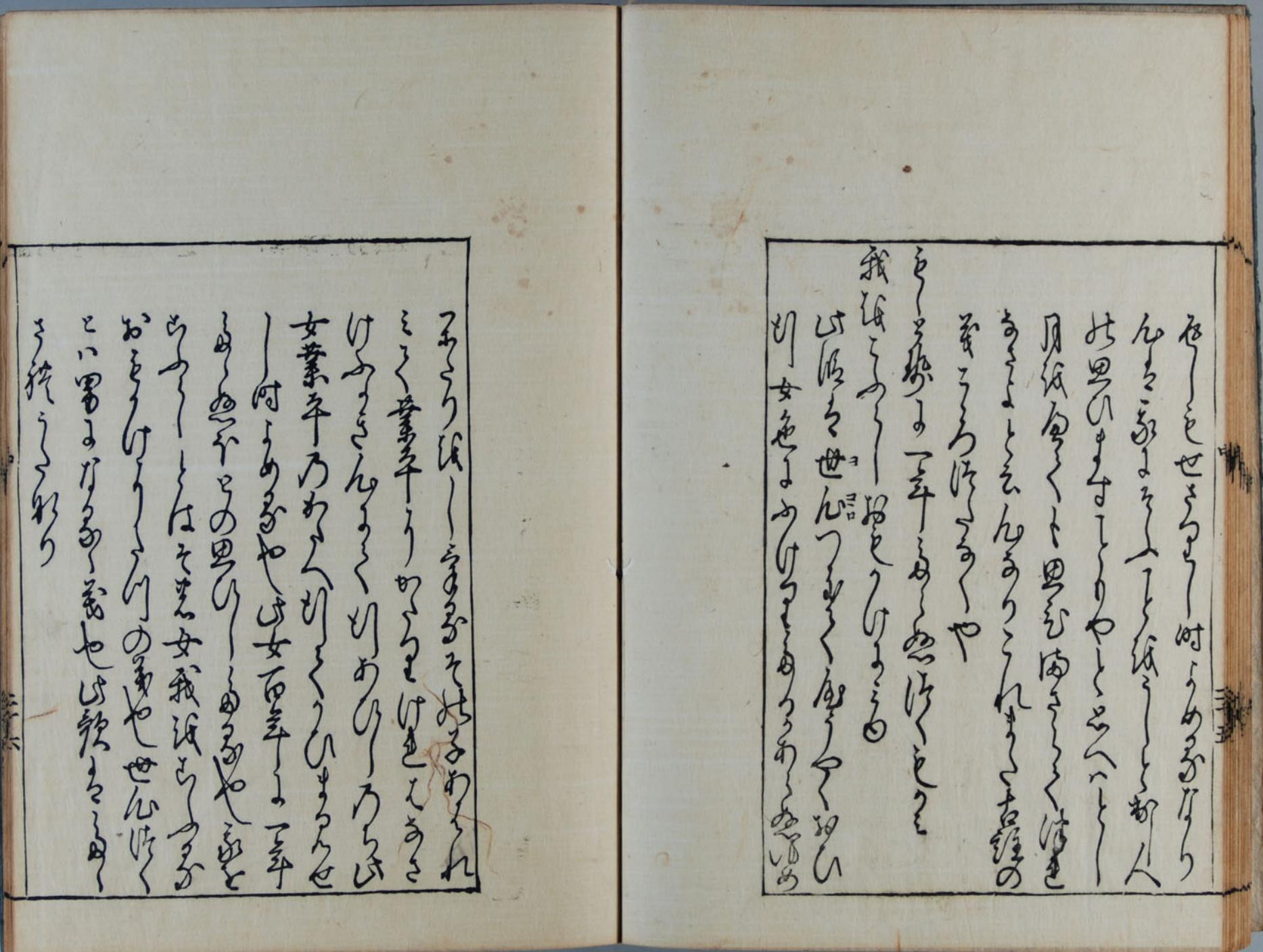


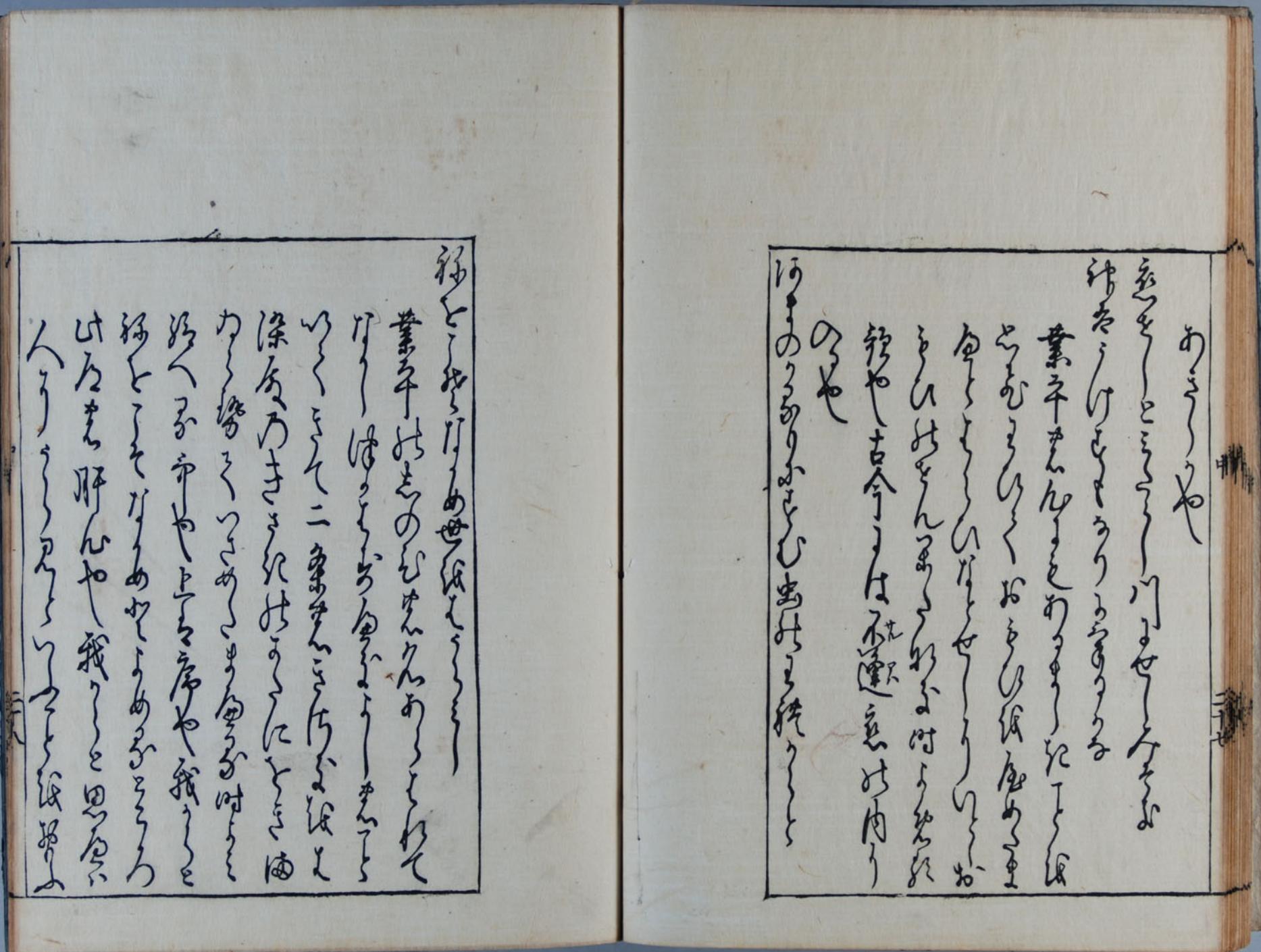


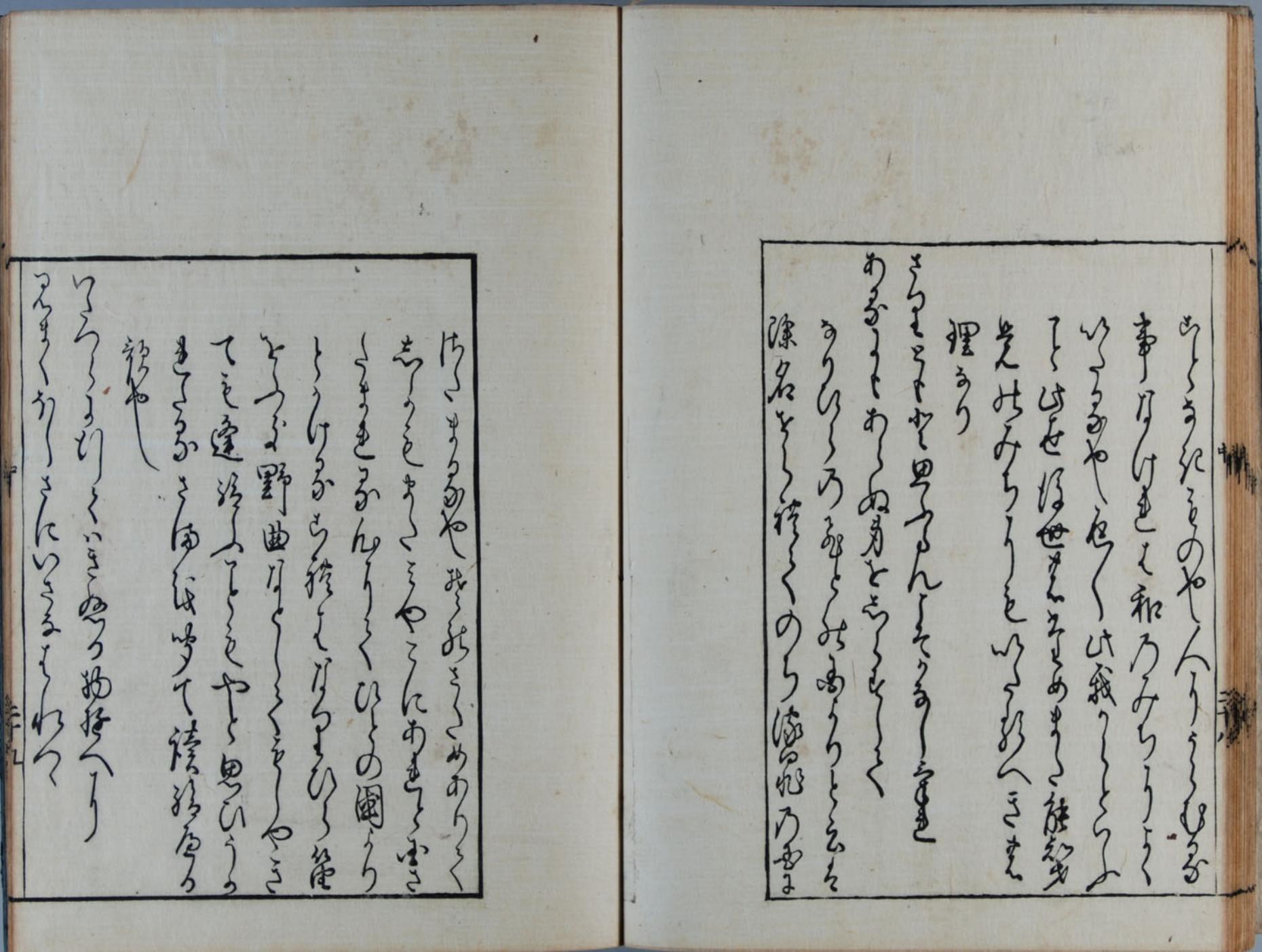


人月色も夜も月もあらうもよ
うそへりゆくや
そ月夜の人のいは
えりきよすとよむかく
女おどれゆ中みく葉半紙
えのひくよしゆふとれは
ゆくわくさり
名ふおもくわくとよもよもされぬ
がくおゆきよもよもよもされぬ
女葉半紙色のうわくとれぬ



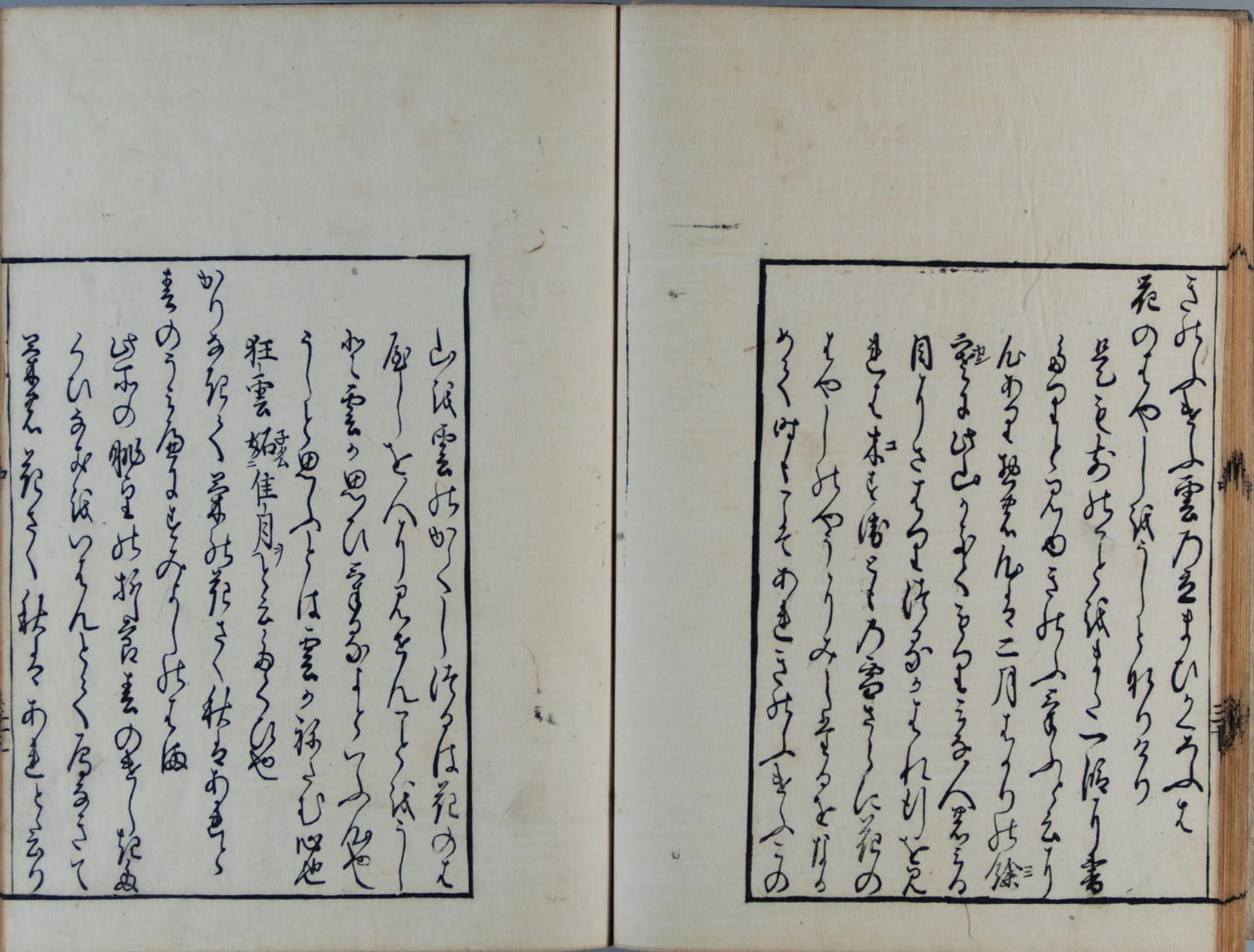


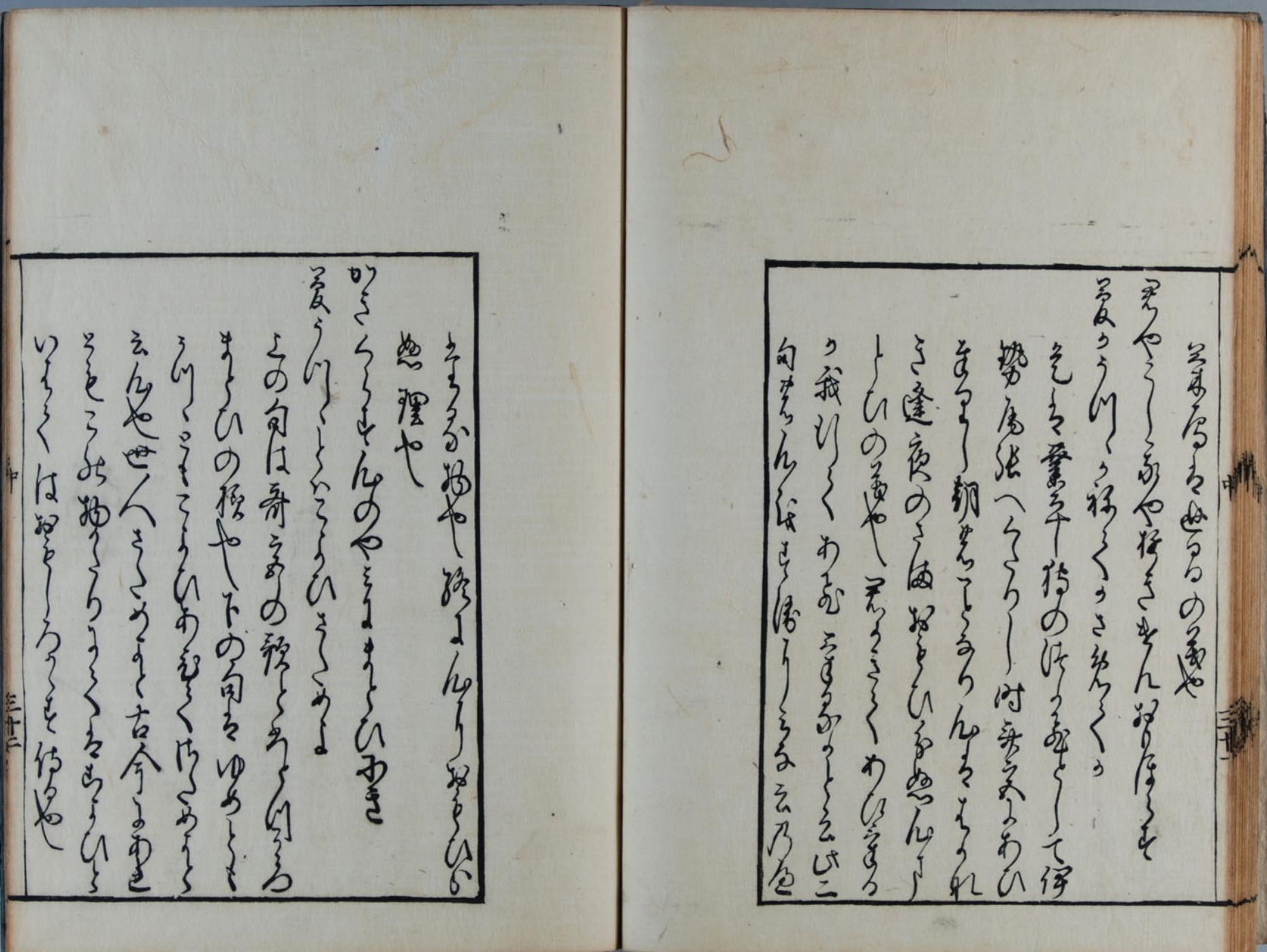


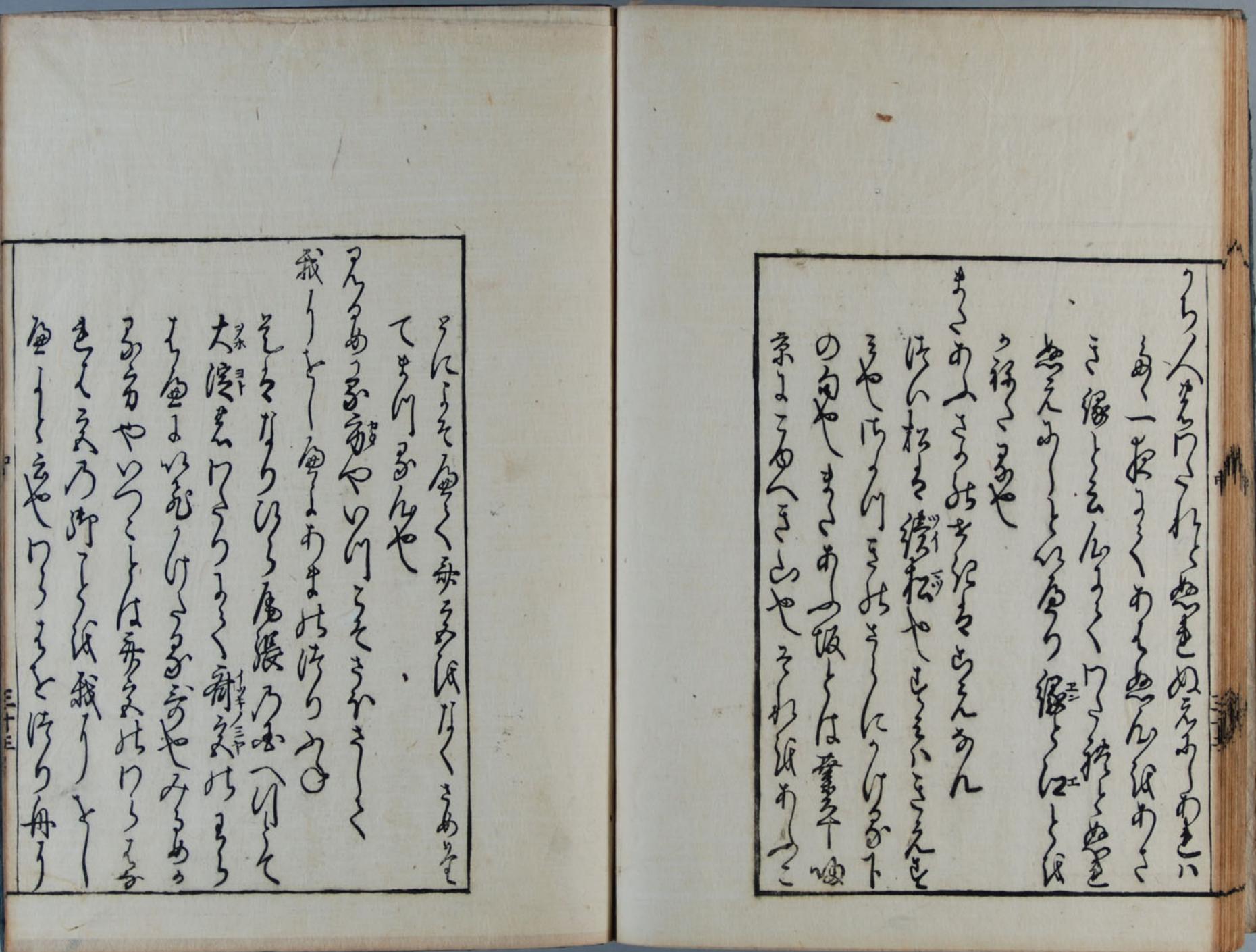


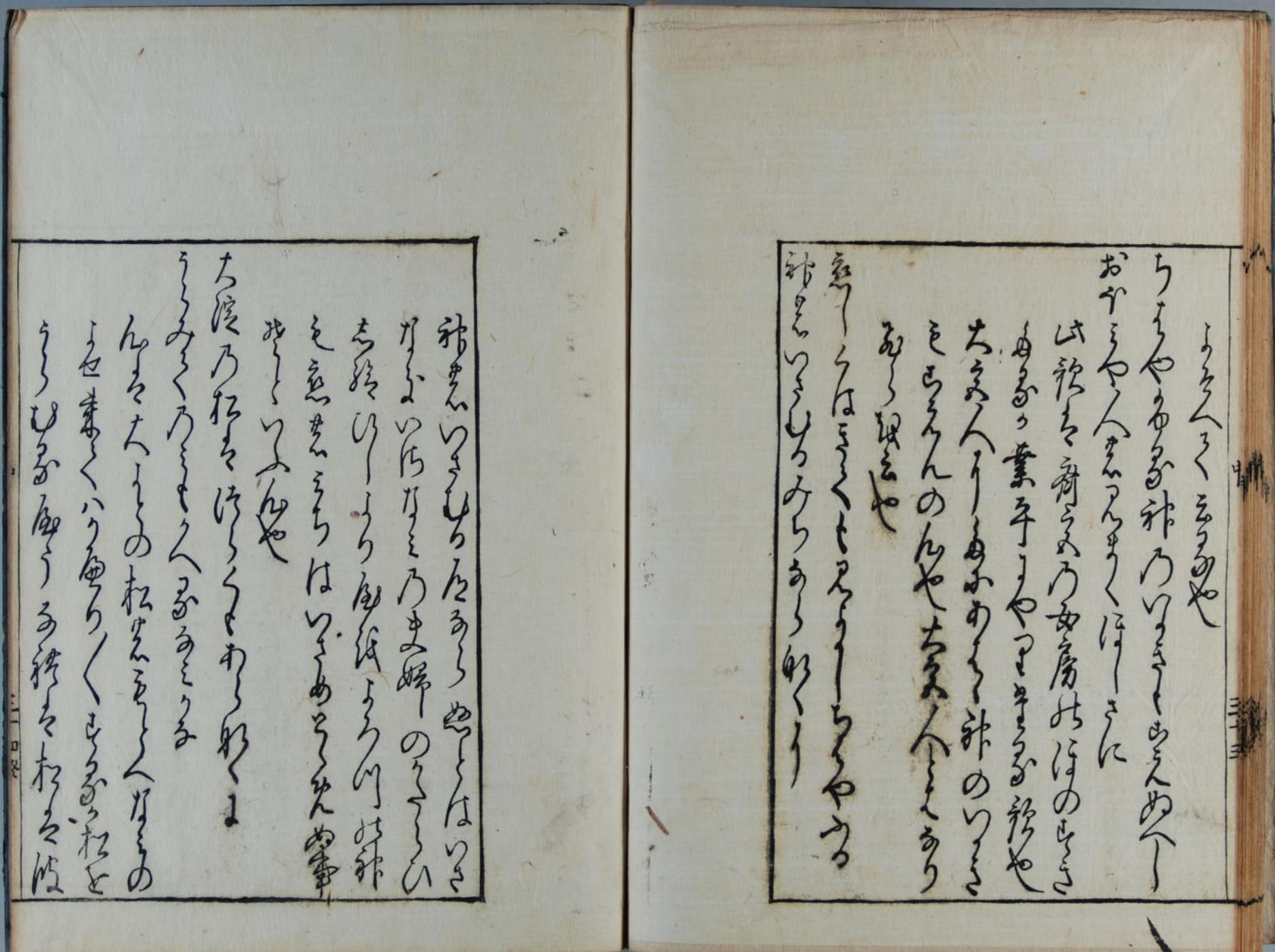
遙かに見る所の時を経やりまことに舟を出みあがれはるゝとあり
その向うに船を出せりとそ
とまはやくに立ちまくると通
らまやびとどうりてふとはやま
り無づくはやうと思ひ出せり
人まちせばりると思ひ出せり
れんやうはやうと思ひ出せり
とは事半歩すとくとくとく

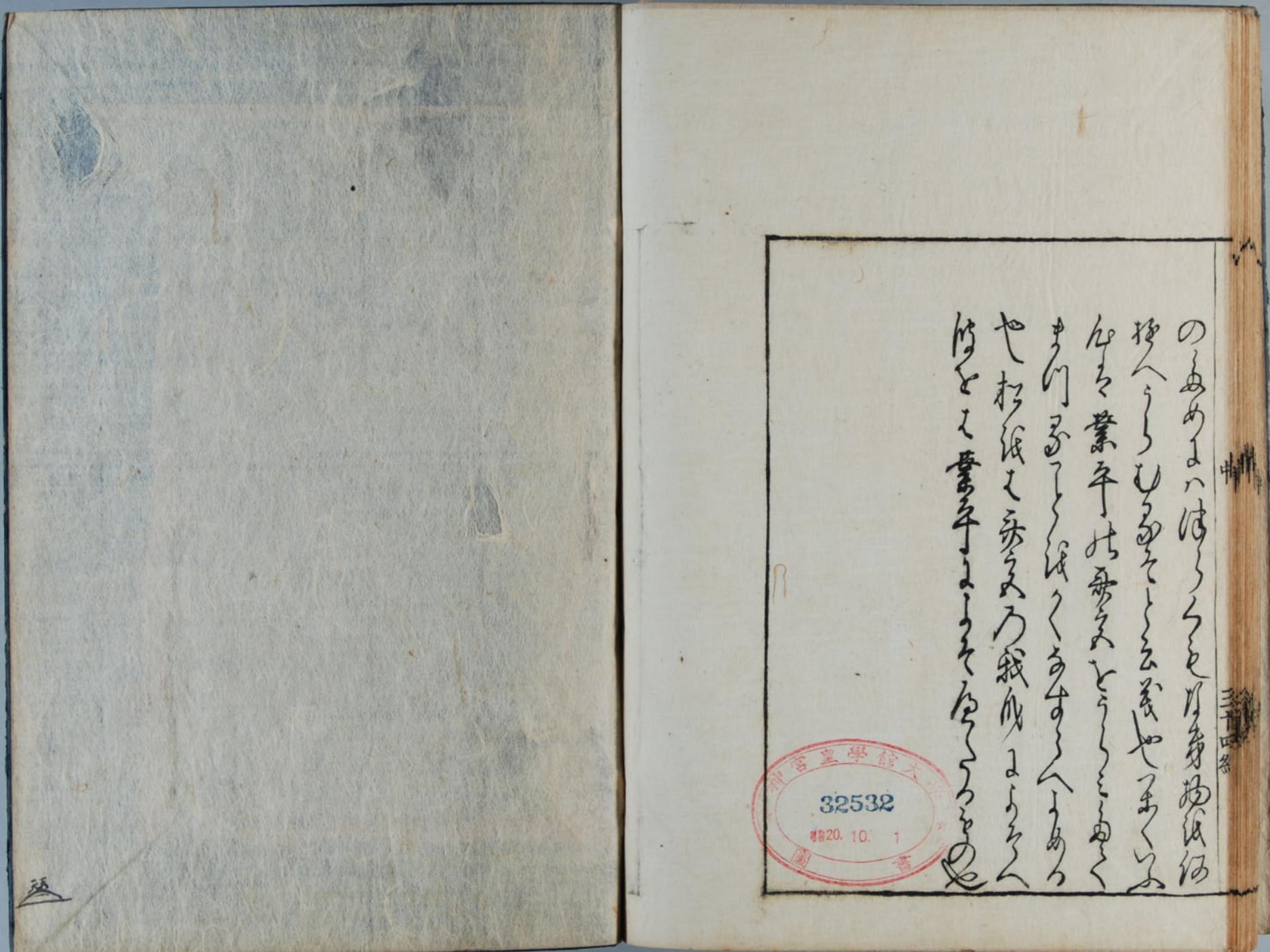
我を我らをひくとおもふく
行くとひくへまよふんは葉
半おとをひくとひびんのう
とくらうと一葉^スく
川は流れまくとその浦にて
あきやひせとくわくわく
はく葉半流のありあつてあゆ
とくらうとひくとひくと
あふ人ゆく下はくとくとく
川ひく御^はのやくより道













名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「山口記」中
10062254 37/37